

【本教材について】

- テーマ： 1. 防災リーダーの役割/住民(構成員)の自助意識を高めるには
- 単元名： 1地域の災害発生のおそれと自主防災活動の必要性
- 所要時間： 60分程度
- 準備：
 1. 自治体の地域防災計画やハザードマップの内容をスライドに反映させて下さい。
 2. 「1. わがまち(地域)の災害発生のおそれ」は、「地震災害(p.11～p.16)」と「風水害(p.17～p.21)」の2種類の【ワークショップ】があります。地域の状況に合わせてご利用下さい。
 3. 補助教材にある「ワークシート」と細マジック(黒)を参加者人数分準備して下さい。
 4. 適宜、スライドの追加や変更をすることができます。参加者の特性(自主防災組織等の会長が多いか、在職期間が長いかなど)に応じて、内容の追加・削減や修正・変更を検討することで、より良い研修効果が期待できます。
 5. 実際に研修を行う前に、何人かのグループを作り、練習し合う場を設けることもよい研修とするうえで効果的です。

自主防災組織等のリーダー育成研修

**防災リーダーの役割/住民
(構成員)の自助意識を高めるには**

**地域の災害発生のおそれと
自主防災活動の必要性**

学習目標と内容

●学習目標

地域防災リーダーとして、最低限理解しておきたい
基本的なことを理解する

<目次>

- わがまち(地域)の災害発生のおそれ P. 4～25
- 自主防災活動の必要性 P.26～33

1. わがまち(地域)の 災害発生のおそれ

近年、大規模な災害が
頻繁に発生しています

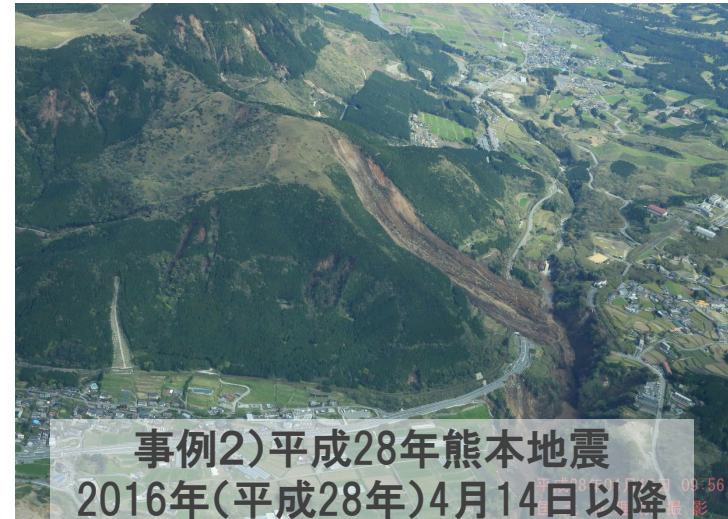
災害発生のおそれを認識しておくことの重要性

●近年、日本各地で発生している地震災害



事例1)東日本大震災
2011年(平成23年)3月11日

写真:総務省消防庁ホームページ



事例2)平成28年熊本地震
2016年(平成28年)4月14日以降

写真:総務省消防庁ホームページ



事例3)大阪府北部を震源とする地震
2018年(平成30年)6月18日

写真:内閣府防災情報のページ



事例4)北海道胆振東部地震
2018年(平成30年)9月6日

写真:総務省消防庁ホームページ

災害発生のおそれを認識しておくことの重要性

●近年、日本各地で発生している風水害



事例1)平成26年8月豪雨
(広島市で土砂災害)
6年8月21日
(11:00~12:00)
国土地理院撮影

写真:国土交通省 国土地理院ホームページ



事例2)平成29年九州北部豪雨
(福岡県や大分県などで
河川氾濫、土砂災害)

写真:国土交通省ホームページ



事例3)平成30年7月豪雨

写真:国土交通省ホームページ



事例4)令和元年台風15号災害

写真:国土交通省ホームページ

私たちの地域に
起こりうると想定されている
地震災害／風水害

市に想定されている地震の被害

● 想定地震

- 地震（震源： マグニチュード： 最大震度： ）

● 主な被害

- ・ 人的被害（死者●●名、負傷者●●●名）
- ・ 物的被害（建物倒壊、火災、液状化、土砂災害）

「地震災害」と「風水害」の2種類がありますので、説明する方が、地域の実情に合わせて、適宜選択してご利用下さい。

また、本スライドの赤枠の内容は、研修を行う地域で発生が想定されている地震についての被害想定図等に置き換えて下さい。本スライドでは、首都直下地震の震度分布図を例示しています。

研修会の受講者や規模にあわせて、被害想定図等を用意して下さい。



市に想定されている大雨や台風等の被害

● 大雨や台風による主な被害

- ・ 高潮による浸水
- ・ 洪水による浸水
- ・ 低地帯等の内水氾濫による浸水
- ・ 大雨による土砂災害(土石流、がけ崩れ等)
- ・ 強風・竜巻による家屋倒壊等

「地震災害」と「風水害」の2種類がありますので、説明する方が、地域の実情に合わせて、適宜選択してご利用下さい。

また、本スライドの赤枠の内容は、研修を行う地域で発生が想定されている大雨や台風についての被害想定図等に置き換えて下さい。本スライドでは、千代田区洪水ハザードマップを例示しています。研修会の受講者や規模にあわせて、被害想定図等を用意して下さい。



千代田区洪水ハザードマップより引用

＜地震災害＞

皆さんが住む地域には
どのような被害が想定されて
いるでしょうか？

「地震災害」と「風水害」の2種類がありますので、研修を行う方が、地域の実情に合わせて、適宜選択してご利用下さい。
また、研修会の受講者や規模にあわせて、市町村単位・町内会単位・小学校区単位などワークショップで考えてもらう対象地域を決めてください。



地震災害における地域の危険の整理

【個人作業】 <10分>

配布されたハザードマップや被害想定資料を確認し、**皆さんの地域の危険性**について「ワークシート(地震)」に書き出しましょう

- ① 想定震度は？
- ② 津波の可能性は？
- ③ 液状化の可能性は？
- ④ どのような被害や影響が生じるか？
 - ✓ 建物倒壊
 - ✓ 火災

ワークシート(地震)	
自分の地域における地震時の被害を、ハザードマップや被害想定資料で確認してみましょう。	
① 想定震度	
震度	
② 津波の可能性	
津波の可能性	あり・なし / 浸水深 / 到達時間
③ 液状化の可能性	
液状化の可能性	あり・なし
④ その他、地震によって地域に生じる被害・影響等	
地震によって、津波や液状化以外に、どのような被害や影響があるか考えてみましょう。	

研修の受講者の防災に関する知識の習得状況等に応じて、作業時間等を適宜調整して下さい。



グループ内で共有 <15分>

ワークシートを活用しながら
皆さんの地域の危険について
話し合いましょう

地震の揺れによる被害と影響



研修を行う地域で起こると考えられる被害事例をお選び下さい



家具やモノが散乱

写真: 総務省消防庁ホームページ



道路にヒビ、でこぼこ

写真: 総務省消防庁ホームページ

地震の揺れによる被害と影響



研修を行う地域で起こると考えられる被害事例をお選び下さい



液状化

THE GREAT JAPAN 東日本大震災 写真保存プロジェクト

写真: 総務省消防庁ホームページ



延焼火災

提供: 神戸市

写真: 総務省消防庁ホームページ

地震の揺れによる被害と影響



研修を行う地域で起こると考えられる被害事例をお選び下さい



写真: 国土交通省ホームページ

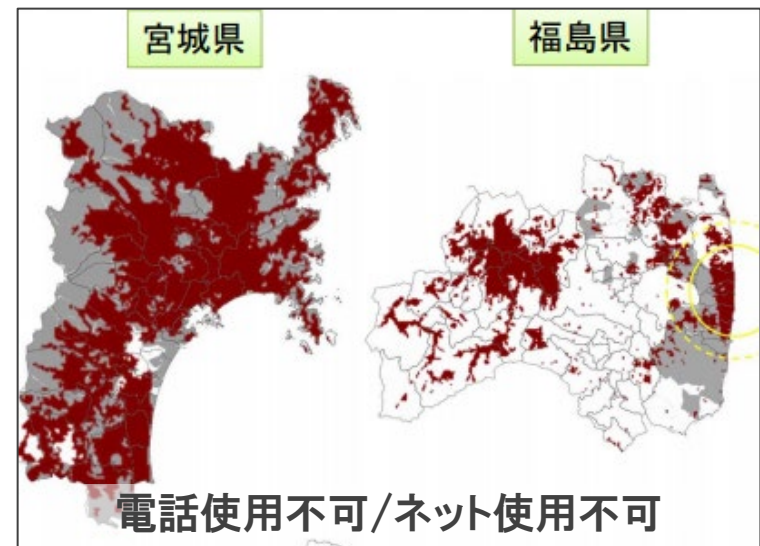


写真: 内閣府 防災情報のページ

＜風水害＞

皆さんが住む地域には
どのような被害が想定されて
いるでしょうか？

「地震災害」と「風水害」の2種類がありますので、研修を行う方が、地域の実情に合わせて、適宜選択してご利用下さい。
また、研修会の受講者や規模にあわせて、市町村単位・町内会単位・小学校区単位などワークショップで考えてもらう対象地域を決めてください。



風水害における地域の危険の整理

【個人作業】 <10分>

配布されたハザードマップや被害想定資料を確認し、**皆さんの地域の危険性**について「ワークシート(風水害)」に書き出しましょう

- ① 河川氾濫による洪水の可能性は？ 水の深さは？
- ② 土砂災害の可能性は？
- ③ 高潮の可能性は？
- ④ その他、気づいた被害等
✓ 強風による建物の損壊

ワークシート(風水害)	
自分の地域における大雨や台風による被害を、ハザードマップや被害想定資料で確認してみましょう。	
① 河川による洪水の可能性	
洪水の可能性 あり・なし	浸水深
② 土砂災害の可能性	
土砂災害の可能性 あり・なし	
③ 高潮の可能性	
高潮の可能性 あり・なし	浸水深
④ その他、大雨・台風によって地域に生じる被害や影響等	
大雨や台風によって、上記以外に、どのような被害や影響があるか考えてみましょう。	

研修の受講者の防災に関する知識の習得状況等に応じて、作業時間等を適宜調整して下さい。



グループ内で共有 <15分>

ワークシートを活用しながら
皆さんの地域の危険について
話し合いましょう

大雨や台風による被害と影響



研修を行う地域で起こると考えられる被害事例をお選び下さい



写真:総務省消防庁ホームページ



写真:総務省消防庁ページ

大雨や台風による被害と影響



研修を行う地域で起こると考えられる被害事例をお選び下さい



写真: 宮古島地方気象台ホームページ



写真: 千葉県ホームページ

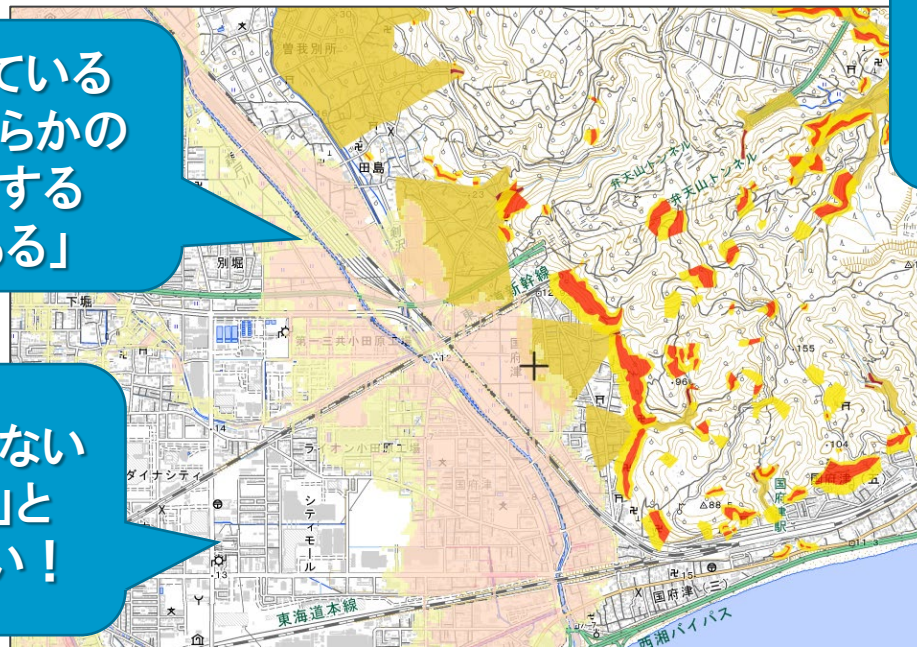
洪水・土砂災害ハザードマップの見方

「ハザードマップ」は、起こり得る場所の情報を与えてくれる

ただし、決して完ぺきではありません・・・

「色が塗られている
ところでは、何らかの
災害の発生する
可能性がある」

「色が塗られていない
ところは安全だ」と
捉えるべきでない！



ハザードマップは
俯瞰的に見る
情報の一つ



家屋単位などの「ピンポイント」で厳格に読み取らない！

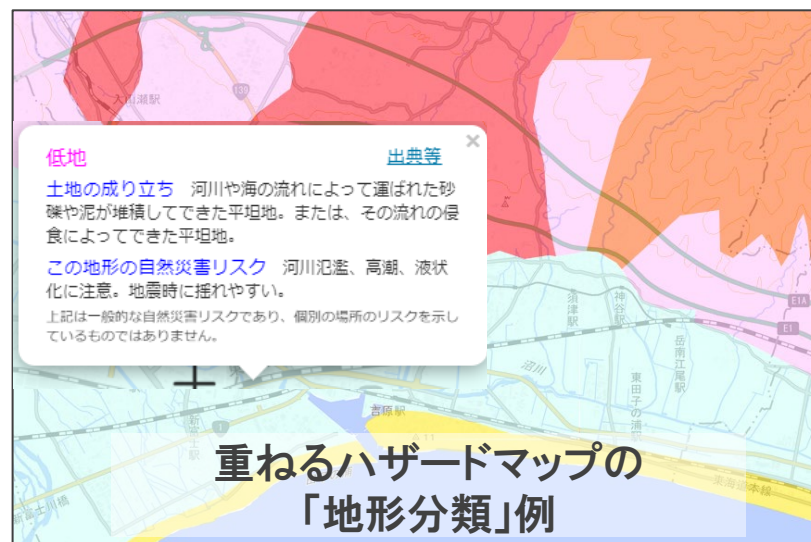
参考：自治体・企業の防災担当者のための防災ハンドブック（日刊工業新聞社）

「ハザードマップは有効だが、依存しすぎには注意が必要」静岡大学防災総合センター教授 牛山素行

洪水・土砂災害ハザードマップの見方

「洪水ハザードマップ」 注意すべきポイント

- 地形的に洪水の可能性がある場所でも、中小河川などでは洪水浸水想定区域の指定作業が行われていない可能性があります。
- 川と同じぐらいの高さ(低地)は洪水の可能性あります。



洪水・土砂災害ハザードマップの見方

「土砂災害ハザードマップ」 注意すべきポイント

- 崖崩れや土石流などが発生しうる場所であっても、人家などがまったくない場所は土砂災害警戒区域等の指定対象箇所にはなりません。
- 山間部には指定されていない危険な地域が無数にあります。

土砂災害警戒区域等の指定がなされていなくても
安全が保障されているわけではない。

特に、風雨の激しい時などは、山間部の道路の通行は危険！

1. わがまち(地域)の災害発生のおそれ - まとめ -

- 近年、大規模な地震や風水害が発生し、被害は甚大です
- ハザードマップや被害想定を使って、地域に起こりうる災害リスクを正しく理解しましょう

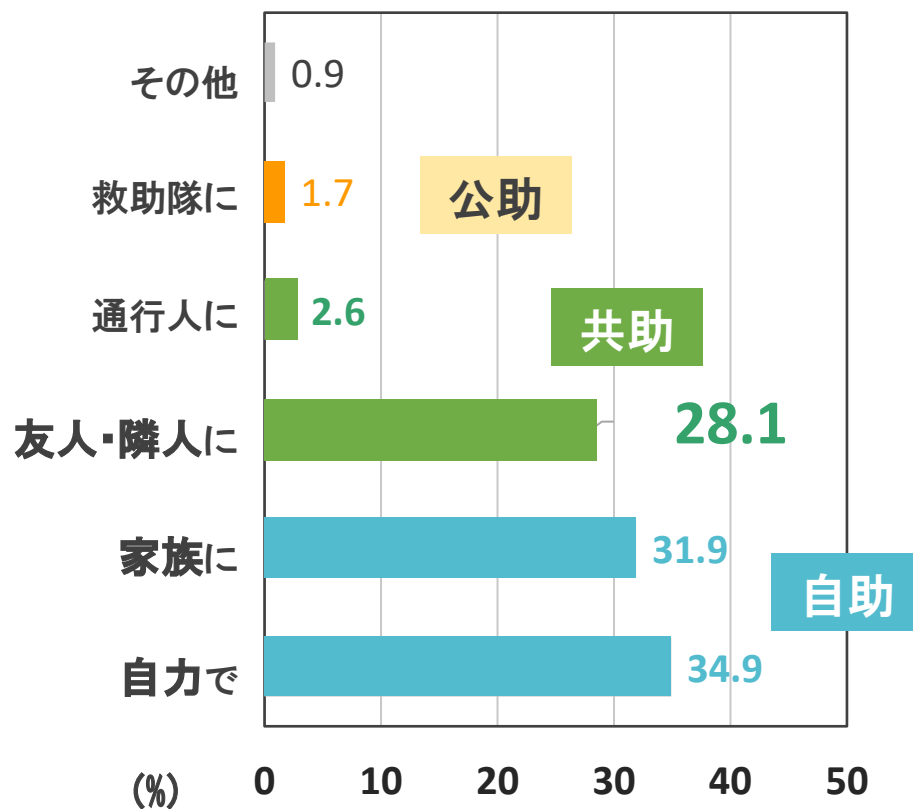
2. 自主防災活動の必要性

災害が発生した地域における対応の実態

(救助活動の実態)

阪神・淡路大震災において、倒壊家屋から救助したのは**自助が66.8%、共助が30.7%、公助は2%足らず**

阪神・淡路大震災における倒壊家屋からの
救助活動の主体



災害時(特に直後)は
「**公助**」が間に合わない

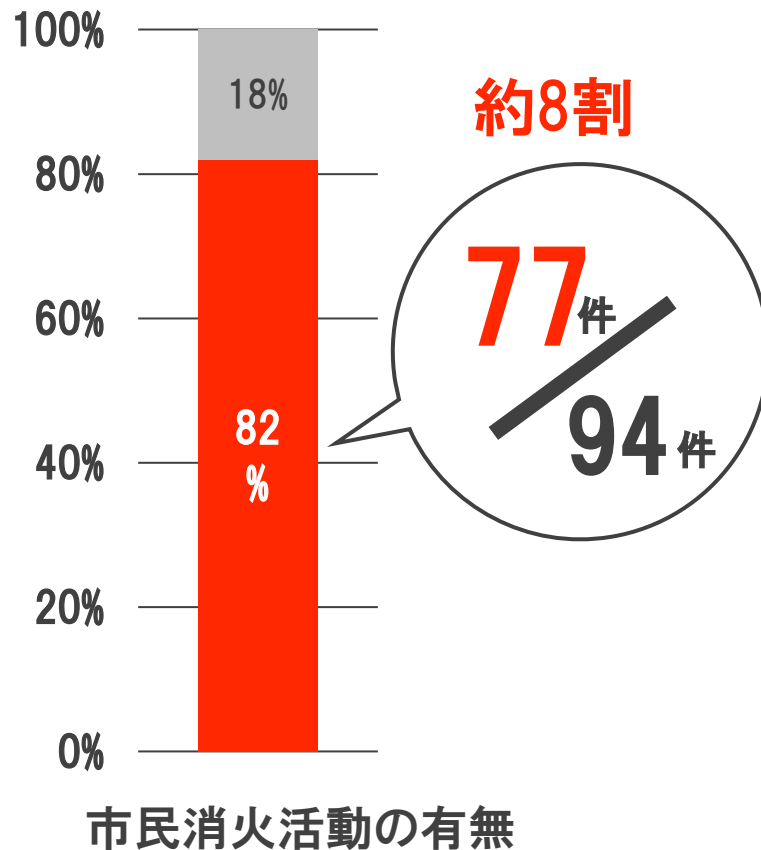


直後は
「**自助**」と「**共助**」で
守り抜く必要

災害が発生した地域における対応の実態

(消火活動の実態)

阪神・淡路大震災時に、神戸市内で、調査した94か所の火災現場のうち、**約8割の77か所で市民消火活動が展開された**



長田区西代市場火災

自治会リーダーの呼びかけで、200人以上のバケツリレー
倒壊家屋を動かし延焼防止

東灘区御影西町火災

子どもを含む約300人がバケツリレー

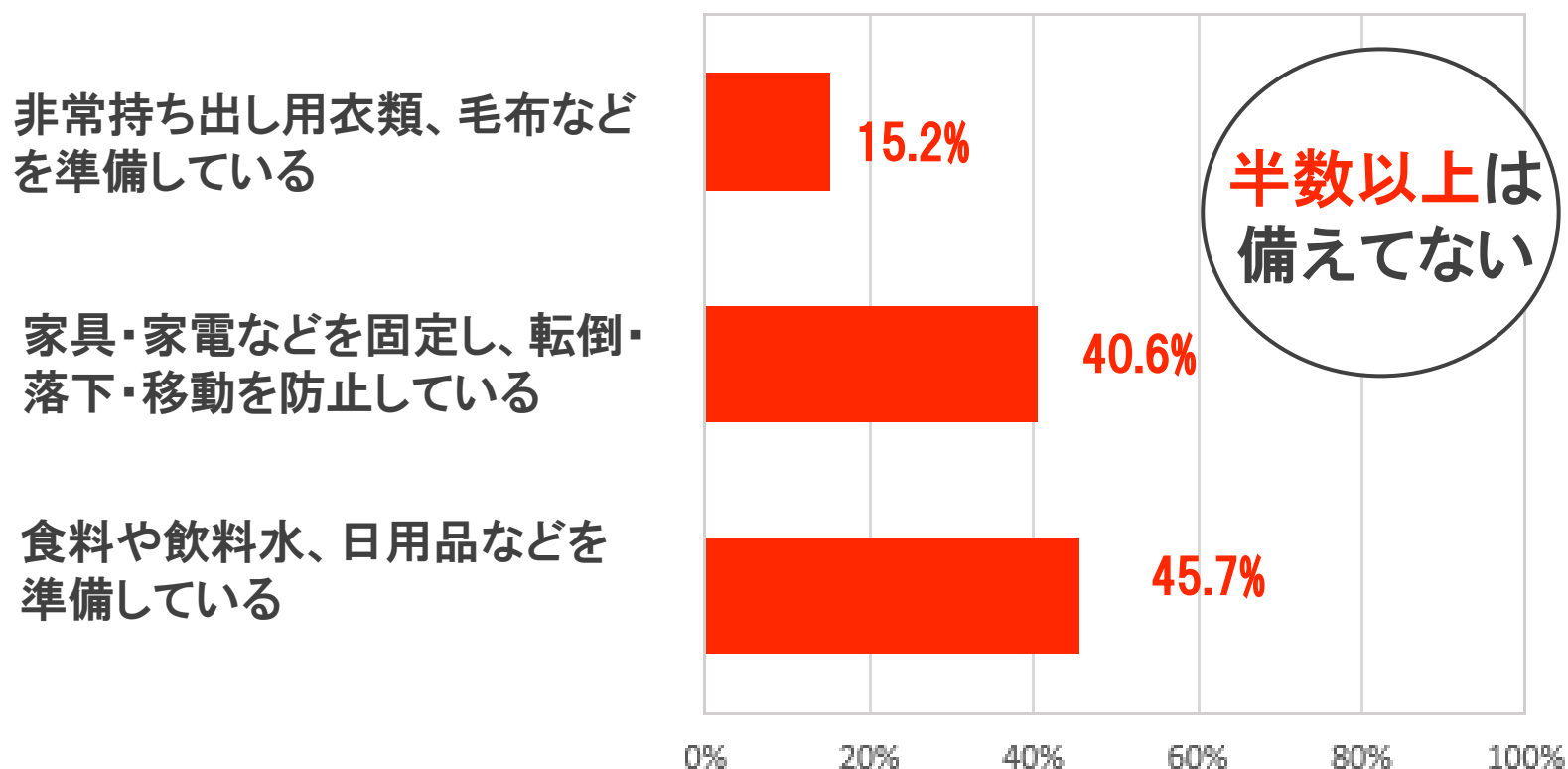
長田区東尻池町火災

近隣企業からポンプ、ホースなどの提供を受けて活用

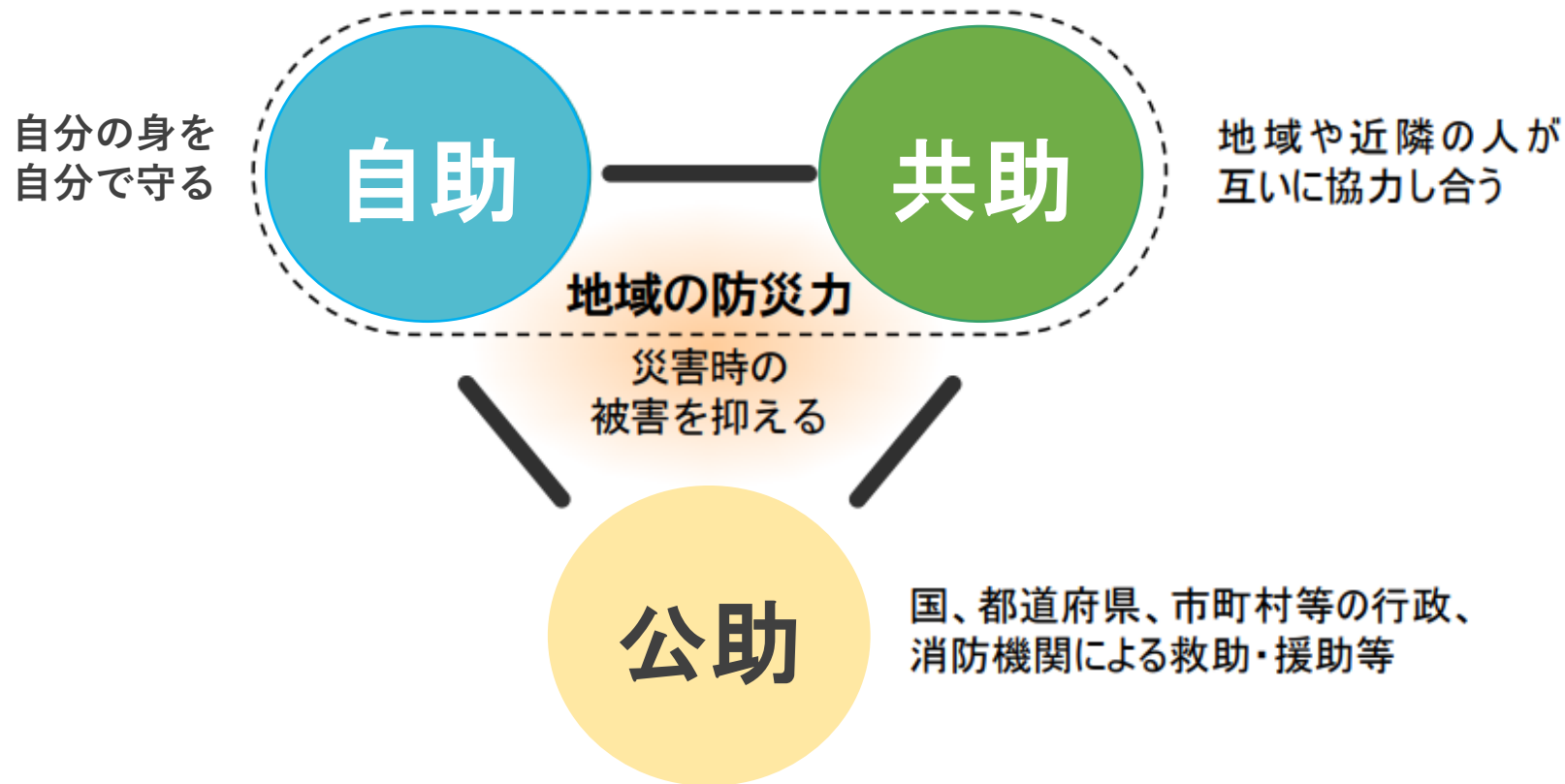
自助意識の現状

近年、自助の意識は高まってきているが、まだ不十分

各家庭が大地震に備えて、行っている対策



自助・共助の重要性



災害時(特に直後)は、「公助」の活動には限界がある
✓道路の寸断等で地域が孤立 ✓行政等も自身が被災

「自助」と「共助」の防災活動が重要

【事例】実際の災害時における共助

■地域ぐるみでの避難体制

くろせ ちょう ようこく

(東広島市黒瀬町洋国団地:広島県)

- 平成30年7月豪雨で土石流による被害を受けたが、住民で支え合っ
て事前に避難したため、死者やけが人がゼロだった。
- 要配慮者を含む7名が避難準備の発令前に自主的に避難した。この
時、自治会で事前に決めていた要配慮者を支援する担当者が避難
の補助をした。
- 平成26年の災害を受け、防災
に関する取組をはじめ、緊急告
知ラジオの設置や民生委員等
による高齢者・障がい者の避難
を支援する担当を事前に決め
ていた



参考:内閣府「平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について(報告)【参考資料】」

2. 自主防災活動の必要性

- まとめ -

- 災害時(特に直前、直後)は、「自助」と「共助」の防災活動が重要です

まとめ

- 近年、大規模な地震や風水害が発生し、被害は甚大です
- 災害時（特に直前、直後）は、「自助」と「共助」の防災活動が重要です